

彩都のまちづくりとこれから

(国際文化公園都市)

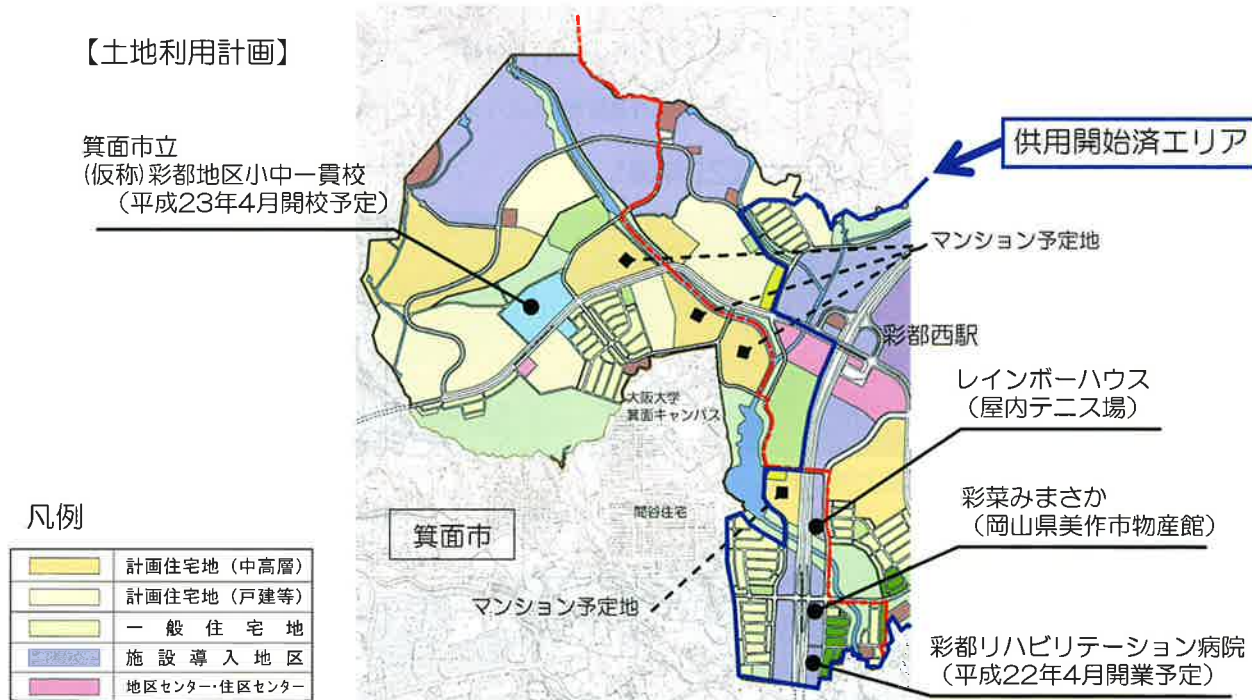


平成16年4月のまちびらき以来、平成19年3月の大阪モノレール彩都線の延伸、そして彩都西駅の開業を経て、順調にまちづくりがすすむ「彩都(さいと)」。

既に、2,000戸・6,000人を超える方が新しい生活をスタートさせています。

箕面市と茨木市にまたがる彩都。今後は、箕面市域を中心に事業を展開していきます。

【土地利用計画】



※現時点のマスタープランであり、今後変更となる場合があります。
※上図の情報は平成21年12月時点のものです。

箕面市域については、平成16年4月のまちびらき後、現在、約280人・約200戸が居住されており、この10月には、間谷住宅に隣接するエリア約13haの供用を開始するなど、順調にまちづくりがすすんでいる状況です。

今後は、平成23(2011)年4月の「箕面市立(仮称)彩都地区小中一貫校」の開校、そしてマンションや戸建住宅などの入居に向けて、順次、造成工事や基盤整備工事等をすすめているところです。

環境にやさしいまちづくりをすすめています

彩都では、低炭素社会に向け、環境にやさしいまちづくりを官民連携で実践しています。

UR都市機構による公園・緑地の整備、道路の街路樹や透水性舗装、里山を活かした公園のピオトープ化、行政・民間事業者による屋上緑化、雨水利用、太陽光発電、カーシェアリング等のほか、各種制度を活用した、電気自転車シェアリングの社会実験、居住世帯向け省エネ診断の実施、『緑の講演会』や住民参加ワークショップ開催等、さまざまな側面から、都市環境対策に取り組んでいます。

造成工事と防災対策

彩都においては30~40mに及ぶ高盛土や長大な斜面が発生する計画となっています。

UR都市機構としましては、学識経験者のご意見を聞きながら、防災計画を策定し、特に高盛土の施工にあたっては、地中に谷止め工などの防災施設整備を行うとともに盛土の品質管理を行いながら工事をすすめています。また、地下水位観測等の動態観測を行い、より安全性の高い宅地を整備しています。

また、開発により下流河川へ雨水の流出増をもたらさないよう調節池を築造しています。調節池は、100年確率の降雨に対しても調節出来る機能を備えています。

(裏面につづく)

山並み景観保全と斜面緑化

山並み景観を大事にされている市民の皆様から、山肌があらわになった景観について、心配の声を多くお聞きしております。

現在、彩都の箕面市域については、道路・公園・宅地等の基盤整備工事をすすめるにあたり、伐採工事や造成工事を実施しているため、ご心配をおかけいたしている次第です。

箕面市からの強い要請もあり、URとしては、平成22年春から右図エリア（赤丸エリア）の斜面についても、順次緑化を行う予定です。（植栽に適した時期である春・秋を中心に行います。）
現時点では、平成25年春頃までには緑化を含めた工事について概ね完了する予定です。



平成22年春に
緑化工事に着手する斜面

【東生涯学習センターからの景観予想図】

※計画図を基に作成したイメージであり実際は異なる場合があります。

造成工事の最盛期・緑化工事着手時期（平成22年頃）



緑化工事着手後 約1年後（平成23年頃）



緑化工事着手後 約2年後（平成24年頃）



緑化工事着手後 約5年後（平成27年頃）



緑化工事着手後 約10年後（平成32年頃）



「彩都」に関するお問合せは・・・

UR都市機構 彩都開発事務所

TEL 072(727)1995